

創造・参加・実践
No.579



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号

西 阪 急 ビ ル 9 階

TEL06-6375-9869代 JR071-7155代

(FAX)06-6373-4133 JR071-7151

発行責任者 荻山 市朗
編集責任者 宮野 勇馬

純ベア750円、年間臨給5.44ヶ月!

厳しい逆風の中 4年連続のベア獲得!

中央闘争委員会は3月15日9時から交渉の席についた。組合員の負託を胸に最後の最後までベアにこだわり強く交渉を続けた。大手労使が軒並み昨年を下回る回答で妥結する中、厳しい交渉となったが、精一杯の成果を引き出し、席上妥結した。

中央闘争委員会は、2月6日に開催された第35回中央委員会で決定した2017春闘方針を受け、2月7日に要求書を会社に提出し、組合員とその家族の負託に応えるべく鋭意交渉を進めてきた。

そして、集中回答日の前日、3月14日に、地本代表者会議を開催して春闘交渉の情勢について共有し、あくまでもベアにこだわって最後まで闘い抜くことで意思統一した。

指定した回答日である3月15日に突入し、中央闘争委員会は、15日9時から交渉の席についた。大手企業の賃上げ回答が軒並み昨年を下回らる中、きわめて厳しい状況ではあったが、荻山委員長を先頭に中央闘争委員会は、ベアに

こだわって最後の最後まで粘り強く交渉し、純ベア750円を勝ち取った。ベアの獲得は4年連続であり、4年間で合計3,250円となる純ベアを積み上げることとなった。また、年間臨給について



徹布に包まれた会議室でベアにこだわって闘い抜く決意をした地本代表者会議



集中回答日の前日、徹布に囲まれた委員長室で議論する



粘り強い交渉の末、4年連続となるベアを勝ち取った中央闘争委員会

は、5・44ヶ月となり、契約社員とシニア・シニアリーダー社員の時間給5円引上げ、その他の総合生活改善などを含め、若手からベテラン層まで幅広く賃金改善となる成果を引き出し、席上妥結した。

荻山委員長は妥結にあたり、今春季生活闘争では、単年度の業績だけでなく、労働力不足への対応、ワーク・ライフ・バランスの推進、前述の「働き方改革」など、今後の展望に関わる課題についての協議も深めてきたことに言及し、社会の変化に対応するために、技術革新の活用を含めて効率的に仕事をこなし、生産性の向上を通じて会社の持続的発展と組合員の働きがいや処遇の改善につなげていくべきであり、その中で、ベアをネガティブに捉えるのではなく、継続的な公正な分配を通じて組合員の地位や労働意欲の向上と生産性の向上の好循環を実現していくために今後の前向きな議論を求めたいとの考えを述べた。

さらに、JR西日本を支えるグループ会社に働く社員、組合員の賃金をはじめとする雇用・労働条件の改善、地位の向上についても会社としても最大限の配慮をするよう求め、JR西日本以上に厳しい状況に置かれる労働力の確保と格差の是正のためにも、魅力ある賃金・労働条件・職場環境の整備は喫緊の課題であり、グループへの対策の重要性を改めて強く訴えた。

※詳細は、業務速報または別途送付する春闘妥結解説ニュースを参照してください。

各地方での徹布・徹紙の取り組み、掲示板を活用した春闘の見え化や春闘決起集会への参加など、中央闘争委員会の取り組みに対してご協力、ご支援をいただいたことに改めて感謝申し上げます。西バス地本、中バス地本、広島病院支部、宮島フェリー支部の春闘への引き続きの支援を要請する。

2017春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

JR西労組中央闘争委員会は、本日2017春季生活闘争の最終交渉に臨み、基準昇給の実施に加え、純ベア750円、年間臨給5.44ヶ月分、契約社員、シニア・シニアリーダー社員の時間給5円引き上げのほか、北陸第3セクター会社への出向者の出向手当改善等の回答を引き出し、大きな成果を確認して席上妥結した。

JR西労組は連合・JR連合方針に基づき、月例賃金総額6,000円以上の引き上げ、純ベア3,000円、シニア・シニアリーダー社員・契約社員の時間給単価4%引上げ、年間臨給5.7ヶ月等を中心とする要求を提出し、JR西日本の堅調な経営動向を背景に、組合員と家族の負託に応えるべく、成果の公正な分配を求めて精力的な交渉を重ねてきた。

今春季生活闘争は、世界経済の不透明感が拡大する中、国内企業も好不調の企業が混在するなど、難しい環境の中での闘いとなった。一方で、JR西日本の経営動向は、昨年比減収減益見込みであるものの、熊本地震の影響、北陸新幹線開業効果の一巡など特殊要因を除いた基礎トレンドは上昇基調であり、JR西労組組合員の努力によって好調な経営を継続している。

交渉において我々鉄道業は、長期雇用を通じて技術・技能の向上を培っていくことが重要であるとの認識を踏まえ、安定的な配分を持続させることが組合員の生活の改善、労働意欲や求心力の向上につながると継続して主張してきた。また、契約社員を含めて職場の要員需給がひっ迫する中、組合員が懸命に業務遂行している一方で、今年度は、日々の業務を改めて見直し、より効率的かつ効果的に業務を行うために「働き方改革」に積極的に取り組み、時間外労働の縮小などの成果を出している。これらの成果に対する配分も主張し、ベアの継続にこだわった力強い議論を展開してきた。

しかし、会社は、昨年比で減収減益であることや、今後人口減少に伴い市場全体の縮小が見込まれるなど、経営見通しは楽観できないと主張し、特に将来の固定費増につながるベアの実施には非常に慎重な姿勢を貫き、接点の見出しにくい交渉となった。

最終局面では大手企業の賃上げ回答が軒並み昨年を下回る見通しの中、極めて厳しい状況となったが、中央闘争委員会は、組合員とその家族の熱い思いを受けて、生涯賃金の増加につながるベアを最優先に徹底してこだわりの粘り強い闘いを続け、最終的に純ベア750円、年間臨給5.44ヶ月を中心とする成果を勝ち取った。4年連続のベアにより、3,250円の純ベアを積み上げたことは非常に大きな成果である。

今春季生活闘争も徹布行動や各級機関の春闘集會等への積極的な参画により、中央闘争委員会を精力的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様にご心より感謝申し上げます。今後、両バス地本、広島病院支部、宮島フェリー支部、JR西日本連合に結集する労組の交渉が本格化する。

この成果を活かして相乗効果が発揮されるよう最大限支援していく。

最後に、今後も安全を基礎に、会社の健全な発展を通じて私たちの地位の向上へ邁進していく決意を明らかにし、2017春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2017年3月15日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
2017春季生活闘争中央闘争委員会

【主な妥結内容】

- 労働協約に定める基準昇給の完全実施(定期昇給分の確保)
- 純ベア750円(全社員の職務遂行給に750円を加算)
※750円にエリア手当の反映分を含むと797円。
- 年間臨時給と5.44ヶ月(夏季6/30年末12/8に2.72ヶ月ずつ支払い)
- プロ採(大卒)・総合職(高専卒)初任給の引き上げ措置
- 北陸3セク会社への出向手当(広域、エリア内)に3,000円加算
- 契約社員、シニア・シニアリーダー社員の時間給5円引き上げ(京阪神地区で2年目以上の契約社員(駅、客乗)は、10円引上げ)
- シニア・シニアリーダー社員の出向者の労働時間補てん措置等の導入
- 総合生活改善等
 - ・特定診断利用支援金の改善
 - ・項目の拡大(肝臓がん、胆のうがん、すい臓がん、前立腺がん、動脈硬化、心疾患)
 - ・項目数制限なし、項目あたり上限額廃止(男性2万円、女性3万円)
 - ・保育所等利用支援金の新設(共済会負担から会社負担へ)
 - ・団体定期保険のシニア・シニアリーダー社員への拡充
- 扶養手当の見直しについて早期に提案を実施(口頭表明)
- 企業型確定拠出年金の導入(2018年度中の導入を目指す)(口頭表明)